



宇宙

Vol.65

●題字は深町正喜氏



トラ公園にて 花月クリニック 井原院長

■ GONGOVA2016	2	■ 新人紹介	7
■ 胆嚢結石、胆管結石について	3	■ 『平成28年熊本地震』	7
■ 30周年記念行事に向けて	3	被災地への緊急支援物資送付しました	
■ 聖陵トピックス	4	■ 日田漫歩 ⑤1 幻のG3薩摩サミット	8
老健大会、植樹ボランティア・花月グランドゴルフ			
■ 新人オリエンテーション・新人歓迎会	6	■ 聖陵会 HP・Blog 紹介	8
		■ 編集後記	8

(第19回草の根国際協力研修プログラム・タイ西北部山岳少数民族ボランティア活動)

聖陵花月クリニック院長 井原 亮

タイ国第2の都市チェンマイよりジェットコースター的な悪路をチェンラーイのメーファールアン大学・ラチャバット大学の学生の乗る車に同乗し2時間ほど走ると、目的地であるバン・メークライ村に到着した。世帯数10戸、人口40名の山岳少数民族白カレン族集落で宗教はキリスト教徒(70%)と仏教徒も混在している村です。昨年(チェンラーイ)までとは異なる新しい活動地であり、今回のボランティア活動は貯水タンクの設置と作業小屋の建設です。

タイと日本の学生、社会人の参加者(30人)は朝から作業にかかっている。到着時に村中に医師が来ていることを通達してもらったおかげで翌朝から数人の患者さんが聖陵岩里診療所の旗を掲げた仮設診療所に待っていた。このあたりの村人はよほどのことがない限り病院には行かないので、見学がてらに来院した感じでした。胸部痛、湿疹、膝痛、頭痛などが多かったのですが、ある57歳の男性で肘、両足趾の痛みがあり拝見したところ、ものすごい関節の変形と腫瘍かと思うぐらいの隆起がありました。ずっと以前に痛風と言われたが治療せず、放置するばかりか酒を朝からでも飲むぐらいのアルコール依存症であったためこのようになってしまったのである。

“お酒を控えてね”と言うと「へへへ」と笑っていました。滞在中20人ほどの患者さんが来てくれました。今回常駐していた日本人コーディネーターの富田イクマ氏が不参加でしたのでタイ語の通訳はMs.ナムタンと英語で会話することになりました。日頃の勉強不足を嘆きつつ何とか乗り切りました。夜のミーティング時に村での健康管理について15分ほどの講義を川嶋辰彦学習院大学名誉教授に依頼されましたので、脱水症の予防や睡眠を十分にとること、疲労時には勇気を持って休むことなどの話をしました。学生・社会人の参加者には少々の体調不良はあるも大きな病気はなく安堵しました。村の食事は大変美味しく、やや塩分が多めと思われたが来院された方の血圧は正常の方が多かった。これ

は、スパイスが効いていて塩分多めと感じたのであろうか、次回は塩分測定器を持参し測定してみようと思います。参加者たちはリピーターも多く、私が村を離れる時に日田に是非来ますと嬉しいことを言ってくれました。

タイの奥地ではあるが経済発展の波を垣間見ることが出来ます。2004年のGONGOVAでは村に電気が全くなく夜は真っ暗で蝋燭の下で食事をとりミーティングをし、トイレに行くにも懐中電灯が必要でした。2008年では各家庭にソーラ発電機が設置されるも宿営地の夜は真っ暗でした。

しかし、今回は村に「電柱があり電気が来ていて滞在する家には明かりがあり、学生たちはスマホを充電していました。「スマホ使えるの?」と聞くと、目の前に学校があり校舎の付近ではWi-Fiが飛んでいてスマホが使って通信できるとのことでした。以前は入村から出村までの間は完全に外部と連絡が取れなかったのに時代は変わったと感ずる次第です。また、薄型テレビ、洗濯機、冷蔵庫がある家もさらに驚いたものでありました。

村の子供たちは屈託のない“微笑みの国タイ”にふさわしく両手を合わせて挨拶してくれます。登下校はジェットコースター的な道のため自転車などでは到底無理で、小学校高学年になると日本でいうスーパーカブ(バイク)に乗りノーヘルで、さらに2人・3人乗りでかつ飛ばして帰っていました。

最後にGONGOVAは6回目ですが8年ぶりの参加であるのと、先に送った医療品・医薬品がチェンマイ空港の税関に引っかかり危うく全部没収されそうになったこともあり、若干の緊張とともに入村しましたが、参加者とはいつもの様にコミュニケーションがうまく取れ無事に任務を終了できたことを嬉しく思います。帰りの飛行機の待ち時間にトラ公園に行き体長3mのトラに触ってきました。

以上GONGOVA 2016の報告でした。



診察の様子



タイの風景



学習院大学名誉教授 川嶋辰彦先生(左)
花月クリニック 医師 井原院長(右)

胆嚢結石、胆管結石について

胆嚢や胆管と言っても、どういう臓器かピンとこない方もいらっしゃると思います。

胆嚢は右の上腹部に位置する袋状の臓器で、細い管である胆管を介して十二指腸につながっています。また、胆嚢は肝臓で作られる消化酵素の胆汁を蓄積、濃縮しており、十二指腸に食物が通ると胆嚢は収縮し、胆汁が胆管へと排出されます。胆管へ排出された胆汁は十二指腸に排出され、食物の消化を助けています。胆嚢内に胆汁の結晶が析出し、石ができることがあります胆嚢結石と呼ばれます。大きさも小さな泥状のものから2cmを超える大きなものもあり、個数も1～100個以上と様々です。

胆管にも石が認められることがあり、胆管結石と呼ばれます。胆嚢結石が胆管に流れ出たものが大多数を占めると言われ、大きさも個数も胆嚢結石と同様で様々です。

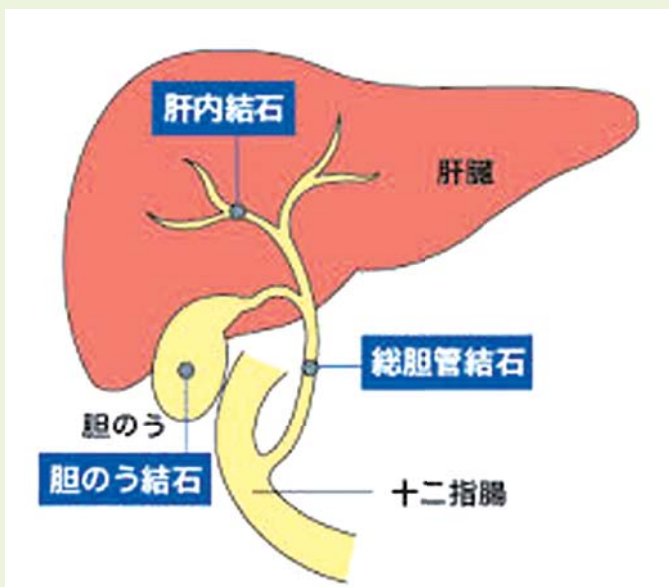
胆嚢結石は無症状のこともあります。右上腹部の痛みや発熱などの症状が出る場合があります。無症状のものは無治療で構いませんが、有症状の場合や胆嚢に細菌感染を生じた場合は治療が必要です。

また、胆管結石は黄疸（体が黄色になる）や上腹部の痛み、発熱を生じる場合があります。胆管結石は胆嚢結石と異なり、無症状の場合でも突然胆管や膵臓に炎症を生じ命に関わる場合がありますので治療の必要があります。

岩里病院では胆嚢結石、胆管結石のある多数の患者さんを診断し治療しています。

健診で胆石などの異常がある方や症状が有り心当たりのある方がいれば、一度先生に相談してみたいかがでしょうか。

聖陵岩里病院 副院長 砂原賢士



30周年記念行事に向けて

1986年9月1日に岩里正生院長（現理事長）と従業員17名で岩里内科医院を開院して聖陵会は始まりました。その後、患者さんや地元の方々、関係者々々によるご協力、職員の頑張りもあり、1988年2月に聖陵会岩里病院と改称し増床すると（病床34床）、1997年11月に介護老人保健施設聖陵ストリーム、1998年10月にこども発達支援センター銀河、1999年11月に聖陵花月クリニック、2015年4月に訪問看護ステーションいわさとをそれぞれ開院、開設し、職員の数も268人まで増え、今年30周年を迎えることができます。

この30年にお世話になった方々へ感謝を込めて、今年10月8日（土）マリエールオークパインで30周年記念行事を行う事となりました。現在、砂原先生を実行委員長に実行委員会を立ち上げ30周年記念行事の準備を進めています。詳しい内容は決まり次第皆さんにお伝えしていく予定です。

今後30周年記念行事に向けて多くの方々にご協力をお願いするかと考えていますが宜しくお願ひ致します。

第26回 大分県老人保健施設大会in別府

2月14日大分県老人保健施設大会が別府市のピーコンプラザで開催され、聖陵ストリームからは4名参加してきました。今回参加したのは、午前中の基調講演と午後の第3分科会と第4分科会です。

■基調講演

日本では2007年に65歳以上の占める割合が2.15%となり、日本が直面している最も大きな問題の一つが人口減少、高齢化。更に出産率と育児・保育の問題、介護離職の問題、年金問題、医療費の問題へと発展しています。今、「私達が出来る事」「すぐにも取り掛かるべき事」は、要支援・要介護の「寝たきりを防ぐ」。リハビリの言葉で言うと「社会復帰」です。要介護状態になる主な原因の一つに「運動器疾患」があげられ、更に増加する事が見込まれています。

要支援になる原因のうち「関節疾患」「転倒・骨折」は、寝たきりの状態が長くなることからADLがおちる事が分かっています。転倒のリスクのある方に職員が見守りや声かけを行い注意しながら下肢筋力訓練やバランス訓練を行い、服薬に関しては、アセトアミノフェン（解熱鎮痛剤）は肝機能障害をおこしやすいので摂取に気をつけるよう話されていました。また、介護者の腰痛について、原因は動作反動や無謀な動作によるもの、心理社会的要因に至るものまで幅が広いようです。週の始まりや午前中になりやすいようです。介護支援者の労働力を軽減する為に介護ロボットの普及も進められています。

※ADL (Activities of Daily Living) は、一般的には「日常生活動作」と訳されます。日常生活を営む上で、普通におこなっている行為、行動のことです。具体的には、食事や排泄、整容、移動、入浴等の基本的な行動をさします。

■第3分科会「連携と事故対応」

【難治性褥瘡に対する栄養面からのアプローチ】～他職種連携によるサポートの一環として～

『入院中・入所中は背部の難治性褥瘡が改善傾向にあったが在宅復帰後悪化され、栄養面より介入することに現在は完治されている』といった内容でした。体立交換指導については居宅支援が、栄養面は管理栄養士が協力することにより家族の協力も得られ在宅での状態が細かく把握することができました。その結果、補助食品等を用い治療に必要な栄養素を補充することにより褥瘡の治癒に繋がった事例でした。

【在宅生活継続支援を目的としたリハビリ合宿への取り組みと合宿後の課題】～U氏の現状を踏まえて～

リハビリ合宿とは、在宅生活を送っている方が廃用症候群など何らかの理由によりADL低下をきたした際に1～3ヶ月間の短期入所をし、集中的にリハビリを実施することです。それによりADLの改善を図り、在宅生活持続の支援をする取り組みです。自宅では、活動性が乏しくなる。転倒を回避するために家族が過介助になってしまうために家族が活動性を考慮した介助方法を習得する必要があると思われる。そのためにはケアマネジャーに依存するだけでなく、いろんな形でアプローチできると良いという事からリハビリ合宿への取り組みや家族による介助の方法を考えていかなければならないという事例でした。

他にも、【骨折後の方の症例についての施設の対応】や【チェックシートの活用により、事故を防ぐ】等の事例がありました。

■第4分科会「在宅を支える地域ネットワーク」

【認知症の方の在宅生活を支える】

～キーパーソンに着目して～

認知症の進行に伴い通所サービスの利用を始められた方が種々の問題のため、サービスの継続が困難になった。原因は同居の家族が協力的でなく、同居していない家族がキーパーソンだったため、情報がきちんと伝わらなかった。介護支援専門員（ケアマネジャー）と連携して家族に対し状況に合わせた支援をしたことにより、同居家族をキーパーソンとし問題解決に向けよい方向になってきた。これにより、利用者と家族両方に配慮することが大切だということがわかる事例でした。

～大分市介護予防事業「元気はつらつ教室」について～

地域包括ケアシステムの構築、医療と介護の連携強化など様々な課題が検討されているなか、大分市でH27年度介護予防事業「元気はつらつ教室」が開始されました。事業の目的は、生活機能が低下している2次予防事業対象者に対して、通所より運動機能、口腔機能、栄養指導などのプログラムを実施することで生活機能の維持改善と自立した生活を支援することだそうです。

他にも「訪問リハビリ」や「オレンジカフェ」についてなどさまざまな地域サービスや連携の例を挙げられていました。



地域包括ケアシステムが昨年4月から開始しました。高齢者や障害者が住み慣れた地域でよりよく過ごすことが目的です。その為には自ら寝たきり防止、認知症防止に努め、住民同士の横のつながりを大切に、お互いをいたわり、行政もしっかり住民の健康を管理することが重要になってきます。急性期病院から回復期・生活期の病院、施設入所などの医療・福祉の面から始まり地域の健康体操、趣味の集いなど要支援者の体・心のサポートを行い社会とつながりを持ち誰もが社会の中で生活することで「ここに住んで良かった」といえる社会作りが重要だと思います。

私も、もっと色々な知識を増やし利用者やその家族とのコミュニケーションを取り信頼関係を築くこと、充実した個別ケアを提供すること、スタッフ間の連携が大切だと再確認できた機会となりました。多くの利用者さんやその家族が自宅で安心して過ごせるように、今後も取り組んでいきたいと思います。 聖陵ストリーム 小西勝子

■基調講演

「介護予防 ～運動器疾患と対策～」
大分大学福祉健康科学部設置準備室
副室長 片岡晶志教授

■□演発表

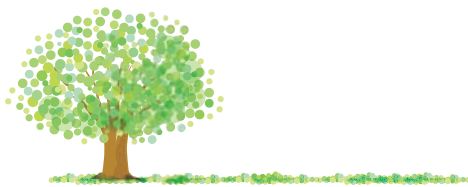
第1分科会「安全な食生活から尊厳ある排泄まで」
第2分科会「業務機能向上へのアプローチ」
第3分科会「連携と事故対応」
第4分科会「在宅を支える地域ネットワーク」

水環境委員会 植林ボランティア

2月28日(日)大分県・森林づくり提案事業として『大山ダム子どもの森』で植林ボランティアに参加して来ました。整備事業・植樹・ラベル設置をしました。

毎年、大山ダムではたくさんの木々が植林されています。しかし、日当たりは良いが、土の状態は植物が成長するには決して適した場所ではない、と植林関係者の方は言われていました。また山奥ということもあり、イノシシや鹿が多数出没する為、せっかく植林して成長していた植物たちが無残な姿になってしまう事が珍しくないそうです。

このように計画通りにはやはりいかないのが現状のようです。そのため、この事業を繰り返し行うことが大切だと実感しました。今後も植林活動に出来る限り参加していき、自然豊かな場所にしていきたいと思っています。



木に設置するラベル

花月グラウンドゴルフ

3月26日(土)三和小学校で花月クリニック主催グラウンドゴルフ大会を行いました。今回は天候にも恵まれ、晴天の青空とピンクの桜花びらが舞う中とても気持ちいい一日でした。スタッフが準備していると開催一時間前から練習に来られる方までいらっしゃいました。

参加者は68名、これは過去の中で一番多い参加者です。チームは8チーム。いつもはスタッフが二名ずつ入って一緒に参加するのですが、スタッフが入れないぐらい大盛況でした。

中には一発で決めてホールインワンされる方までいました。初めてするスタッフは逆に指導までしていただきました。

和気あいあいとした楽しい時間を過ごすことができ、うれしく思います。

たくさんのご参加を頂きありがとうございました。



井原院長 ナイスショット！



全体集合写真

新入オリエンテーション

4月1、2日に行われた新人研修に参加させて頂きました。

病院・老健施設・花月クリニックの基本理念をはじめ、特徴、医療・介護の心構えなど分かりやすく説明して頂きました。

その他、委員会や三重大行事など聖陵会全体の活動についても詳しく丁寧に説明して頂きました。初めて耳にすることも多くとても有意義な時間でした。

また「ワールドカフェ」という名のグループワークでは、新人職員同士でも話し合う機会を設けて頂き親睦を深めることができました。

まだまだ分からないことも多く、助けて頂くことも多いと思いますが、聖陵会の一員として個々で努力してまいります。

岩里病院 梶原沙己



聖陵会について説明を受けている様子



ワールドカフェ



委員会について説明を受けている様子

新人歓迎会

4月8日サッポロビールにて、平成28年度聖陵会新入職員歓迎会が行われました。

昨年からの4月にかけて、聖陵岩里病院、聖陵ストリーム、聖陵花月クリニックに入職した、中途採用を含む20名の新人さんたちが対象で、聖陵会で働く全スタッフといつもお世話になっている皆さんをゲストとしてお迎えした、総勢200名越えの賑やかな歓迎会となりました。

オープニングは、聖陵会芸能隊のソーラン節から始まり、来賓紹介、来賓代表挨拶、理事長挨拶と会が進みました。

花月クリニックの井原院長による乾杯の後は、楽しい食事の時間です。美味しいビールや食事を楽しみながら、ゲストや新人さんたちとの交流を深めました。焼肉やデザートのパイキングは、大好評でした。

その後は、新人紹介、新人代表挨拶、余興です。今年の余興は、新人さんたちにサザエさんに出てくる登場人物を書いてもらい、誰が上手かを審査するものでした。色んなサザエさんが描かれていました。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、最後は岩里病院 山田院長による一本締め(日田式)で、お開きに…



聖陵会芸能隊によるソーラン節



新人紹介の様子

性別や年齢、職歴も様々な新人さんたちですが、これから一緒に聖陵会で頑張っていきましょう。

新人紹介



いしもと ひとみ
石本 瞳

所属／岩里病院 病棟
生年月日／平成7年4月2日
血液型／B型
趣味・特技／絵を描いたり写真を撮ったり。
●先輩方の技術を吸収し、柔軟に対応できるようになります。一生懸命。



こんどう よしみ
近藤 由美

所属／岩里病院 外来
生年月日／昭和52年11月21日
血液型／A型
趣味・特技／読書、思い付きで何かを作る。
●早く一人前になれるようがんばります。よろしくお願いします。



さとう りゅうすけ
佐藤 龍介

所属／岩里病院 病棟
生年月日／昭和58年12月11日
血液型／O型
趣味・特技／スケートボード
●日々努力、一生懸命頑張ります。



たけや ようすけ
武谷 陽佑

所属／聖陵ストリーム リハビリ
生年月日／平成4年10月11日
血液型／A型
趣味・特技／バレーボール、サッカー鑑賞
●一人前の理学療法士になれるように日々精進します。



なかの りょう
中野 竜

所属／聖陵ストリーム デイケア
生年月日／昭和59年7月3日
血液型／A型
趣味・特技／釣り・サッカー
●早く利用者さんの名前や仕事を覚えて頑張りたいです。



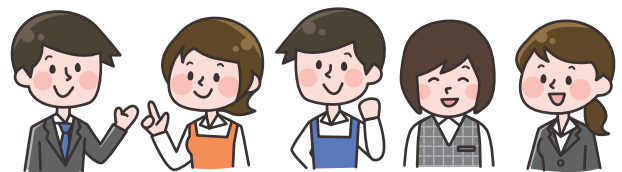
えとう かえて
江藤 楓

所属／聖陵ストリーム 3F
生年月日／平成6年6月5日
血液型／O型
趣味・特技／探し中
●先輩達からたくさんのことを学んで笑顔で頑張ります！



ごとう あき
後藤 亜希

所属／子供発達支援センター銀河
生年月日／昭和57年7月15日
血液型／A型
趣味・特技／登山
●子供達に負けなくらい元気に頑張ります。



『平成28年熊本地震』被災地への緊急支援物資送付しました

この度の熊本・大分地震に際しては、甚大な被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げます。
この計り知れない被害に際して、私たち医療法人聖陵会でも、何かできることはないかと考えたところ、聖陵ストリームのほうに全国老人保健施設協会より要請がありました。
今回依頼を受けたのは、熊本・大分地震に伴い被害を受けた福岡の病院です。

送り先：福岡県みやま市瀬高町の病院
支援内容：■オムツ・・・ダンボール20箱
■とろみ剤・・・ダンボール2箱
■ペーパータオル・・・ダンボール2箱
■ゴム手袋・・・ダンボール1箱

医療法人聖陵会では今後も募金や避難所の開設、避難者の受け入れ等私たちにできることをお手伝いさせていただきます。と思っています。

平成28年4月21日

医療法人 聖陵会 理事長 岩里 正生

日田漫歩^{⑤1}

幻の G3薩摩サミット

梶原義則



「百年一日の如し」。予想もしなかった熊本地震に、この言葉を思い浮かべた。

4月14日の最大震度7 (M6・5) に驚いたが、これは「前震」で、16日の最大震度7 (M7・3) が「本震」だったという。「本震一余震」型の経験則が通じない。犠牲者を多く出した。日田地方でも、大揺れにおびえた。

「予知」は、できなかったのか。

実は、同23、24日に爺さん3人 (G3) で鹿児島行を計画していたが、この地震発生で断念した。元市議会議長の諫山洋介 82歳、元副市長の石松雅彰 66歳、それに小生 72歳。薩摩料理を味わい、噴火活動が激しい桜島の昭和火口や、1914年1月12日に始まった「大正大噴火」についての「桜島爆発記念碑」を、ご両所に見てもらおうつもりだった。

大正大噴火は、昭和火口の頂上部の南岳に起因する。島内は溶岩流や火砕流に襲われ、6集落が全滅した。子供、老人、女性は2日前か

ら避難した。犠牲者 30人のうち、逃げ遅れた20人は極寒の海に飛び込み、おぼれた。

井戸の水位低下や地盤隆起など、いろいろな予兆はあった。記念碑は伝える。「爆発数日前から地震頻発し、南岳は多少崩壊。海岸で熱湯が湧き、噴火口から白煙が上がるなど刻々と容易ならざる現象」「村長は数回測候所に判定を求めたが『桜島は噴火しない』との答え。村長は残留島民に『狼狽して避難するに及ばず』と諭達したが間もなく大爆発した」(意識)

逃げ遅れたのもこのため。最後に「住民は理論を信頼せず、異変を認知する時は、未然に避難の用意がもつとも肝要」と締めくくる。「科学不信の碑」と呼ばれる。それから1世紀。普賢岳や御嶽山の記憶も生々しい。噴火も地震も、未だに「予知」の難しさを慨嘆する。



国道212号で、軽乗用車を襲った土砂崩れ=4月16日

経歴：毎日新聞記者。鹿児島支局長、経済部長、編集委員を経て2000年4月、日田赴任。

聖陵会よりお知らせ

聖陵会ではホームページやブログで情報発信をしています。携帯からも見るができますので、ご覧ください。

★広報紙『宇宙』のバックナンバーも公開中!!!

聖陵会ホームページアドレス

<http://www.seiryu.or.jp/>

ブログは聖陵会スタッフが更新中!
聖陵会ホームページにリンクもあります!

聖陵会ブログ「セントボイス」

テイや病院・施設の紹介、癒される内容もたくさん!

<http://ameblo.jp/seiryu/>

日田紹介ブログ「いい日田夢気分」

日田のいいところをたくさん知ってもらおうと、情報を発信中!

<http://ameblo.jp/seiryu2/>

編集後記

熊本地震から一ヶ月以上経ち、ようやく日田市では体に感じられる揺れは少なくなりました。今回の地震では日田市でも落石や土砂崩れ、断水など様々な被害がありました。これから梅雨の時期に入り雨や地震による地盤の緩みで更なる被害の恐れもあるため、皆様も十分に注意されてください。最近は暑さも増し、30度を越す日も多くなりました。暑さに負けないように、聖陵会も職員一同全力で駆け抜けていきたいと思っております。



医療法人 **聖陵会**

■ ホームページ <http://www.seiryu.or.jp/index.html>

■ E-mail ryo-ho@be-net.kcv.jp

救急指定 **聖陵岩里病院** TEL0973-22-1600

訪問看護ステーション **いわさと** TEL0973-22-1618

介護老人保健施設 **聖陵ストリーム** TEL0973-26-3111

居宅介護サービスセンター
訪問介護サービスセンター
こども発達・支援センター **銀河**

聖陵花月クリニック TEL0973-27-5050

アンコール小児病院 (カンボジア)